特性、および化学物質暴露が与える影響を明らかにすることは、化学物質がヒト成長期に及ぼす影響の評価に有用である。

そこで本研究では、今までに得られた知見を踏まえ、ヒト成長期の薬物代謝酵素ならびに薬物動態関連因子の特性について調べ、さらに化学物質が及ぼす影響の特性を、ヒト肝細胞を用い、mRNA および遺伝子レベルで明らかにする。

具体的には初年度は、成長期ヒト肝細胞の収集と遺伝子サンプルの調製および解析を行う。ヒト肝細胞は性、人種、年齢により代謝プロフィールに個体差が認められることから、目的とする試験研究を実施するにあたり適切なヒト肝細胞を選択することは、研究の精度を上げる上で重要である。そこで凍結ヒト肝細胞の購入に先立ち、凍結ヒト肝細胞選択時に添付の代謝データから、各薬物代謝酵素の活性データと年齢、性、人種等との相関について調べた。また、幼若期のヒト凍結肝細胞が幼若期の特性を保持しているか確認するため、RT-PCR 法にて、年齢により異なる発現を示す CYP3A 分子種を、また化学物質の毒性発現に関与する CYP1 分子種、さらに CYP3A、CYP1A 分子種とともに三大主要CYP分子種である CYP2C 分子種の発現について予備的検討を行った。

B．研究方法

1) 市販ヒト肝細胞代謝活性データの解析

凍結ヒト肝細胞選択時の添付代謝データから、各薬物代謝酵素のデータと年齢との相関について調べた（n=50、2-82 才）。薬物代謝酵素活性測定に用いられた酵素反応は以下の通りである。CYP1A2 (Phenacetin O-deethylation)、CYP2B6 (Bupropion hydroxylation)、CYP2C8 (Amodiaquine deethylation)、CYP2C9 (Diclofenac hydroxylation)、CYP2C19 (S-Mephenytoin hydroxylation)、CYP2D6 (Bufuralol 1'-hydroxylation)、CYP3A4 (Testosterone 6β-hydroxylation)、UGT2B7 (Azidothymidin)、UDP-Glucuronosyl transferases (UGT；7-Hydroxycoumarin)。

2) 成長期におけるヒト肝細胞の入手とサンプル調製

2-1) ヒト凍結肝細胞の収集

本研究では、ヒト成長期における凍結ヒト肝細胞を、Gibco Invitrogen Cell Cultures, BD Biosciences, XenoTech, Celsis, Tissue Transformation Technologies の各社から購入した。ヒトの成長期を以下の 4 期間に分類した。すなわち出生直後に観察された生理的体重減少が回復するまでの生後 7～10 日間（新生児期）、新生児期以降 1 才までの期間（乳児期）、1 才から 6 才までの期間（幼児期）、6 才以降 12 才までの期間（学童期）のに分け、該当する肝細胞をドナーあたり 2 vial 以上収集した。また、可能な限り誘導能評価に利用できる接着型ヒト肝細胞の収集を試みた。

2-2) ヒト凍結肝細胞からのサンプル調製

細胞は、液体窒素保管庫から取り出し、直ちに 37℃水浴にて融解したのち、細胞融解キット（XenoTech's Percoll density gradient kits, K2000）を用いて生細胞を精製した。Viability は、trypan blue 漏出法にて測定した。また、Qiagen RNeasy Mini kit および High Capacity RNA-to-cDNA kit にて cDNA サンプルを調製し、RT-PCR を用いて以下の CYP（wild type）; CYP3A4、CYP3A5、CYP3A7、CYP1A1、CYP1A2、CYP1B1、CYP2C8, CYP2C9、CYP2C18、CYP2C19 の発現について検討した。

（倫理面の配慮）

凍結ヒト肝細胞は, 個人情報が確実に連結不可能匿名化されている市販品で, 国立医薬品食品衛生研究所研究倫理審査委員会において審査「非該当」と判断されたものを使用した。

C．研究結果

1) 市販ヒト肝細胞代謝活性データの解析

肝細胞購入時に添付のヒト肝細胞 CYP 代謝活性と抱合酵素活性データにおける年齢依存性の変化について検討した。CYP 代謝活性は、高いレベルの CYP3A4、CYP2C8、CYP2C9 と低いレベルの CYP1A2、CYP2B6、CYP2C19、CYP2D6 の 2 つに分類された。CYP1A2、CYP2B6、CYP2C19、CYP2D6 群では年齢依存的な変化は認められなかった。また、CYP3A4、CYP2C8、CYP2C9 でのバラツキは大きく、年齢依存的な変化も認められなかった。また、性および人種に起因するいずれの変動も認められなかった。

2)成長期におけるヒト肝細胞の入手とサンプル調製

2−1) ヒト凍結肝細胞の収集

ヒト凍結肝細胞については、新生児期2ロット、乳児期は5ロットを、幼児期4ロットおよび学童期は 1 ロットの肝細胞を入手した。初年度に入手した成長期ヒト肝細胞のロット数は、統計解析に不充分であったことから、次年度においても引き続き成長期ヒト肝細胞を収集し、初年度分のサンプルも含め薬物代謝酵素および薬物動態関連因子の遺伝子レベルでの発現解析を行うこととした。

2−2) ヒト凍結肝細胞からのサンプル調製と成長期肝細胞における幼若期の特性確認

一部の凍結ヒト肝細胞を用い、凍結ヒト新生児肝細胞の融解法の確認、および細胞が新生児期に特徴的な特性を保持しているか否かについて予備的検討を行った。

例数は多くないものの凍結ヒト新生児期を含む肝細胞の融解は、成熟期の肝細胞同様の融解法を用いて行ったところ、Percoll density 処理後に得られた viability は 80.0〜90.6%と高い値を示した。これらの肝細胞から cDNA を調製し薬物動態関連因子等を解析するまで-30℃の冷凍庫にて保管管理した。一方、CYP3A7 は胎児期に多く発現しており、生後に低下することが知られている。新生児期のヒト肝細胞において CYP3A7 の発現は CYP3A4 より強いものの、生後 1 年後までには CYP3A7 の発現は CYP3A4 と同程度まで低下した。幼児期での CYP3A7 の発現は、認められなかった(図 1)。

CYP1 分子種についても検討を加えた。ヒト肝細胞中における CYP1A1、CYP1A2 および CYP1B1 の発現にはバラツキが認められ、年齢に相関した変化は認められなかった(図 2)。

CYP2C8， CYP2C9、 CYP2C18 および CYP2C19 についても、年齢に関連した変化は認められなかった(図 3)。

D．考察

1) 市販ヒト肝細胞代謝活性データの解析

薬物代謝研究においては、ヒトと実験動物間における種差が問題点となっている。種差の解消の一環として、不死化肝細胞等を用いた in vitro 代替試験法の開発が進行中であるが、その多くは、ヒト遊離肝細胞をミミックするに至っていない。しかし、ヒト遊離肝細胞を用いる場合でも、CYP 代謝活性には肝細胞の調製状況、ドナーの年令・性・人種、生活習慣病、SNPs 等に起因するバラツキのあることが知られており、肝細胞購入時のロット選択は重要となっている。そこで細胞購入にあたり添付される薬物代謝データを用い、代謝活性と年齢、性等との関連について解析した（n=50、2-80 才）。 その結果、特に CYP3A4、CYP2C8 および CYP2C9 は代謝活性レベルが高いこともありバラツキが大きく、代謝活性と年齢あるいは性との間に相関は認められなかった。バラツキの原因の一つとして、年齢による CYP の構成比の差異が挙げられる。CYP 代謝活性の標準基質は、現段階では最も適切と考えられる基質が FDA から提唱されている。しかし、今後はそれぞれの CYP により特異性の高い基質を用いた詳細なデータの提示が必要と思われる。因みに、Testosterone 6β-hydrodroxylation はヒトの主要 CYP 分子種である CYP3A4 を指標とする反応であるが、本反応は CYP3A4 の他に CYP3A5、CYP3A7、CYP2C19 によっても進行することが知られている（ADME Database ;富士通九州システムズ)。最近、細胞購入時の添付データには、CYP の mRNA 発現および誘導剤による誘導能情報が添付されつつある。現在は、主に CYP1A2 mRNA と CYP3A4 mRNA についてのみ添付されているが、今後、他の CYP mRNA のデータも添付されるようになれば、代謝活性データに加え mRNA 発現量と誘導度をも考慮した、より実験内容に適したヒト肝細胞の選択が可能になると考えられる。

2) 平成22年度は、解析に必要なヒト肝細胞ロットを十分に入手することが叶わなかったことから、次年度も引き続き細胞収集を行い各時期のロット数を揃えたところで、初年度分のサンプルを合わせ、薬物代謝および薬物動態関連遺伝子の検索を行うこととした。

3) 本研究では、幼若期のヒト凍結肝細胞が幼若期の特性を保持しているか確認するため、一部の肝細胞を用いてRT-PCR法により、ヒト胎児期に特有なCYP分子種であり生後に低下することが知られているCYP3A7と生後に増加するCYP3A4の発現について調べ

た。ヒト新生児から調製された凍結ヒト肝細胞においてCYP3A7が発現し、またCYP3A4の発現に比べても高い発現であったことから、新生児期のヒト肝細胞は、新生児期の薬物代謝能を保持している可能性が推察された。毒性発現に関与するCYP1A1、CYP1A2、CYP1B1およびCYP2C分子種の発現と年齢との間に関連性は認められなかった。また一部入手した妊娠後期に相当する凍結ヒト肝細胞では、細胞の形態が成熟期と若干異なることまた非実質細胞の混在が多かったことから、成長期肝細胞の取り扱いには注意が必要である。今回新生児および肝細胞のロット数が少なかったことから、各時期における薬物代謝及び動態関連因子の特徴はロットを追加収集したうえで、詳細な検討を行う予定である。

E. 結論

新生児期および乳児期に由来する凍結ヒト新生児期および乳児期に由来する凍結ヒト肝細胞には、胎児期および新生児期に特有に発現している CYP3A7 を保持していることが推察された。このようにして調製された新生児期のヒト肝細胞は、化学物質が成長期に及ぼす影響のリスクを評価する上で、有用なツールとなりうることが示唆された。

新生児期乳児期および学童期の肝細胞のロット数は充分でなかったことから、来期は細胞収集を継続して行い、ロット数が揃った段階で CYP 代謝酵素の詳細な検討および薬物代謝関連因子の解析を行う。また、化学物質が成長期の薬物代謝酵素系および薬物動態因子に及ぼす影響について解析を行う予定である。

G. 影響研究発表

1. 論文発表

(1) Kikura-Hanajiri R, Kawamura M, Miyajima A, Sunouchi M, Goda Y. Determination of a new designer drug, N-hydroxy=3,4-methylenedioxymethamphetamine and its metabolites in rats using ultra-performance liquid chromatography-tandem mass spectrometry. Forensic Sci Int. 98(1-3):62-9. 2010

2. 学会発表

(1) Sunouchi, M., Miyajima, A., Hanajiri, R., Gouda, Y. O- and N-Demethylation of Levomethorphan by human cytochrome P450 enzymes. (2011.03.06-10; The 50th Annual Meeting of Society of Toxicology, Washington D.C.)

H. 知的財産権の出願・登録状況

該当無し

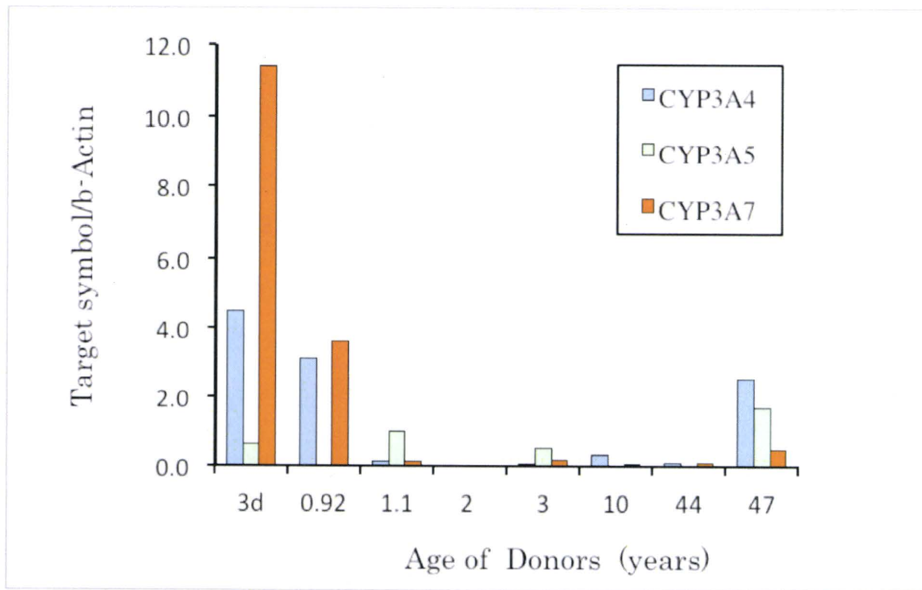


図１．ヒト肝細胞における CYP３A 分子種の発現

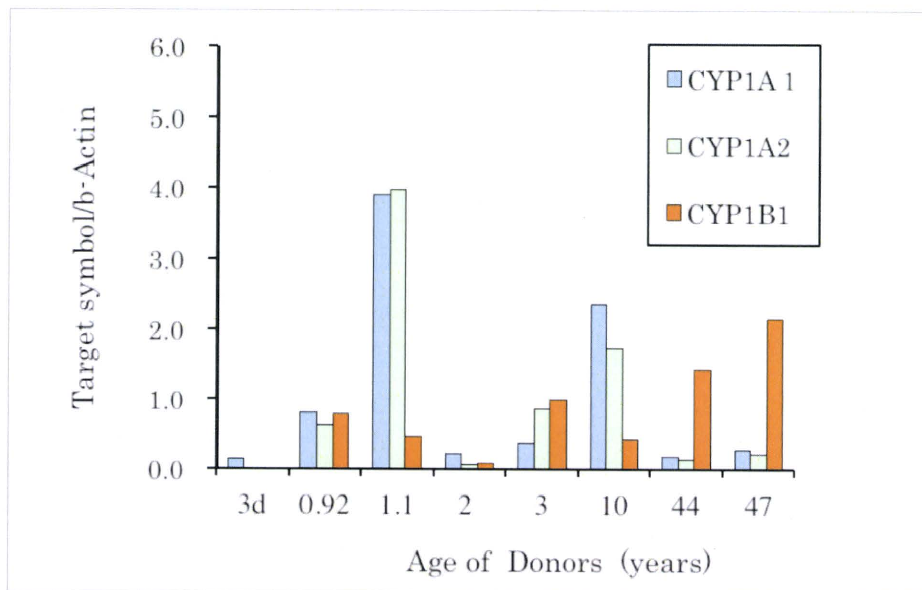


図 2. ヒト肝細胞における CYP1 分子種の発現

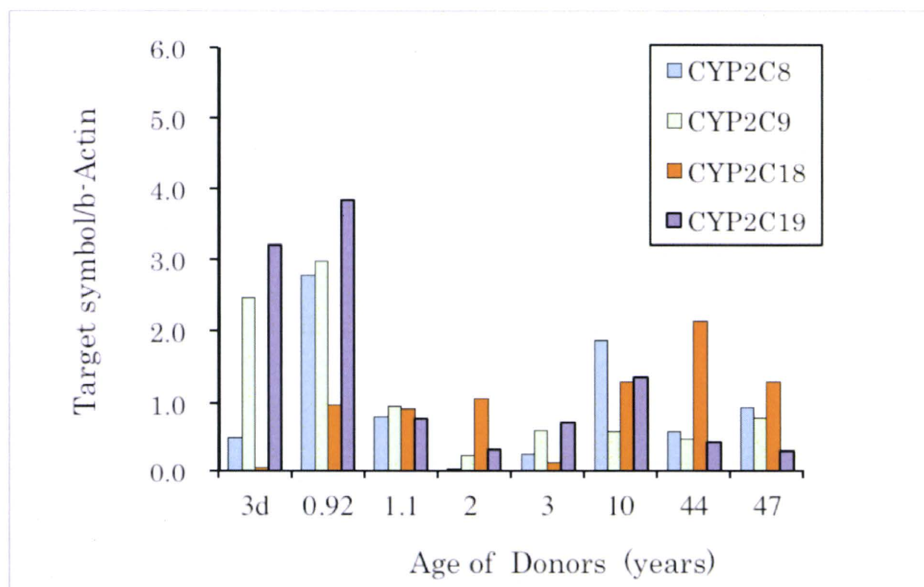


図 3. ヒト肝細胞における CYP２Ｃ分子種の発現

研究成果の刊行に関する一覧表

雑誌

発表者氏名	論文タイトル名	発表誌名	巻号	ページ	出版年
Usami M., and K. Mitsunaga	Proteomic analysis and in vitro developmental toxicity tests for mechanism-based safety evaluation of chemicals.	Expert Rev Proteomics	8: 2	153-155	2011
Usami M., K. Mitsunaga, A. Miyajima, M. Sunouchi, and O. Doi	Complement component C3 functions as an embryotrophic factor in early postimplantation rat embryos.	Int J Dev Biol	54: 8/9	1229-1239	2010
Takahashi K., R. Ishii-Nozawa, K. Takeuchi, K. Nakazawa, K. Sato	Two NSAIDs, niflumic acid and diclofenac, inhibit the human glutamate transporter EAAT1 through different mechanisms.	J Pharmacol Sci	112	113-117	2010
Hirata N., Y, Sekino, and Y. Kanda	Nicotine increases cancer stem cell population in MCF-7 cells.	Biochem Biophys Res Commun	403	138–143	2010
Kikura-Hanajiri R, M. Kawamura, A. Miyajima, M. Sunouchi, and Y. Goda	Determination of a new designer drug, N-hydroxy-3,4-methylenedioxy methamphetamine and its metabolites in rats using ultra-performance liquid chromatography-tandem mass spectrometry.	Forensic Sci Int	98(1-3)	62-69	2010

研究成果の刊行物・別刷

For reprint orders, please contact reprints@expert-reviews.com

Expert Reviews

Proteomic analysis and *in vitro* developmental toxicity tests for mechanism-based safety evaluation of chemicals

Expert Rev. Proteomics 8(2), 153–155 (2011)

Makoto Usami[†1] and Katsuyoshi Mitsunaga[2]

[1]*Division of Pharmacology, National Institute of Health Sciences, 1-18-1, Kamiyoga, Setagaya, Tokyo, 158-8501 Japan*
[2]*School of Pharmaceutical Sciences, Toho University, Chiba, Japan*
[†]*Author for correspondence:*
Tel.: +81 337 001 141 (ext. 342)
Fax: +81 337 076 950
usami@nihs.go.jp

Evaluation of: Groebe K, Hayess K, Klemm-Manns M *et al.* Protein biomarkers for *in vitro* testing of embryotoxicity. *J. Proteome Res.* 9(11), 5727–5738 (2010).

Mechanism-based safety evaluation and reduction of animal use are important issues in recent developmental toxicology. *In vitro* developmental toxicity tests with proteomic analysis are the most promising solution to these issues. Groebe *et al.* systematically applied proteomic analysis to the embryonic stem cell test, a validated *in vitro* developmental toxicity test, and found protein-expression changes induced by model test chemicals selected from various categories of toxicity. Cluster analysis of all the proteins with expression changes classified the test chemicals into two groups: highly embryotoxic chemicals and non- or weakly embryotoxic chemicals. In addition, some protein biomarker candidates that were known to be involved in normal development were identified. Although further mechanistic investigations are needed, the use of *in vitro* developmental toxicity tests with proteomic analysis will contribute to mechanism-based safety evaluation with minimal use of animals.

Keywords: developmental toxicity • embryonic stem cell • *in vitro* toxicity test • mechanism-based safety evaluation • protein biomarker

Recently, mechanism-based safety evaluation and reduction of animal use have become increasingly important in developmental toxicology from various viewpoints, including the need for a vast number of chemicals and their interactions to be evaluated, requirements for accurate evaluation of valuable chemicals and accurate extrapolation of test data to humans, and animal welfare. Usual *in vivo* developmental toxicity tests according to regulatory guidelines do not meet the aforementioned demands, requiring a large number of experimental animals, high cost and much time, with little mechanistic information.

As alternative tests for the *in vivo* tests, some *in vitro* developmental toxicity tests, such as the embryonic stem cell test (EST) and rat whole embryo culture, are considered useful on the basis of validation studies [1]. Validation studies have demonstrated that these *in vitro* tests have sufficient predictability (approximately 80%) of *in vivo* developmental toxicity of various chemicals, although each of the *in vitro* tests does not cover the entire gestation period *in vivo*. This good predictability has not been sufficiently explained, but does encourage their use as alternative tests for *in vivo* developmental toxicity studies. These *in vitro* tests sometimes also provide mechanistic insight into the developmental toxicity, that is, involvement of maternal factors and xenobiotic metabolism.

On the other hand, application of proteomic analysis in developmental toxicology has appeared useful for the identification of proteins involved in toxic mechanisms. For example, analysis of protein-expression changes in the embryonic forelimb bud from pregnant mice administered cadmium, a teratogen causing ectrodactyly, indicated the possible involvement of unfolded protein response and actin polymerization in the teratogenensis [2]. Through the proteomic analysis of zebrafish embryos exposed to perfluorooctane sulfonate, candidate proteins of various categories were identified as being involved in the developmental toxicity [3]. The use of identified proteins as biomarkers in toxicology studies could replace many end points

 10.1586/EPR.11.16 © 2011 Expert Reviews Ltd ISSN 1478-9450

so far employed, even those with higher sensitivity. More importantly, those biomarkers could enable mechanism-based safety evaluation of toxicants.

The validated *in vitro* developmental toxicity tests and proteomic analysis are thus considered to be the most promising combination enabling mechanism-based safety evaluation with minimal use of animals. To verify the potential of this combination, Groebe and colleagues applied proteomic analysis to the mouse EST with a set of 12 test chemicals selected from various categories of toxicity systematically for the first time, as described in the article evaluated here [4].

Summary of methods & results

Mouse embryonic stem cells (D3 cells) were differentiated into myocardiocytes from embryoid bodies in 10 days culture and exposed to the test chemicals throughout the culture period. The effects of test chemicals were determined as an inhibitory concentration at which the number of culture wells containing beating cardiomyocytes was reduced by 50% (ID_{50}). Cytotoxicity was determined as the concentration at which cell viability of the stem cells and 3T3 cells was reduced by 50% (IC_{50}s). Protein samples were prepared at the end of the culture period from the embryonic stem cells exposed to the test chemicals at a concentration around ID_{50}. Protein-expression changes induced by the test chemicals were differentially analyzed between the treatment and solvent control groups by 2DE of dual radioisotope (^{125}I and ^{131}I)-labeled samples in single gels. Images of 2D gels were analyzed with a software package to detect statistical significance and more than 1.5-fold changes in protein spot quantity. All the protein spots detected throughout the experiments were used for cluster analysis. Proteins separated by 2DE were identified by MALDI-TOF analysis of peptides recovered by in-gel digestion from silver-stained gels.

The investigators found 380 protein-expression changes induced by exposure to the test chemicals and identified the proteins. By cluster analysis of all the increased or decreased proteins, they could classify seven test chemicals into two groups: highly embryotoxic chemicals (cluster 1) and non- or weakly embryotoxic chemicals (cluster 2). The cluster 1 chemicals comprised dinoseb, ochratoxin-A and nitrofen, and the cluster 2 chemicals comprised β-aminoproprionitril, metoclopramide, doxylamine succinate and D-penicillamine. ID_{50} and IC_{50}s were similar in the same cluster, but were different between the clusters. This classification was consistent with *in vivo* classification except for dinoseb (mild *in vivo* teratogen) and D-penicillamine (strong *in vivo* teratogen).

In addition, the investigators identified some candidate protein biomarkers that were known to be involved in normal development. Heat-shock protein β-1 (HspB1), Ras-GTPase-activating protein SH3-domain binding protein, Ran-binding protein 5, calreticulin and dihydropyrimidinase-like 2 showed different expression changes between the clusters, and were considered to be biomarkers for embryotoxicity. Hsp8 and Fscn1 protein showed reduced expression in both clusters, and were considered as biomarkers for general cytotoxicity. Based on these protein biomarkers, the investigators discussed the signal pathways possibly involved in the mechanisms of embryotoxicity. In the discussion, they indicated the similarity between mouse and human ESTs with reference to a companion study; protein biomarkers such as HspB1, Ras-GTPase-activating protein SH3-domain binding protein and calreticulin each showed similar responses to test chemicals in the ESTs.

Significance of the results

The paper evaluated here describes the first systematic proteomic analysis of developmental toxicity with a sufficient number of model test chemicals for the cluster analysis. The results indicate that developmental toxicants can be classified according to their embryotoxicity by the proteomic analysis. Furthermore, the classified groups were consistent with *in vivo* developmental toxicity data, although with some exceptions. This means that proteomic analysis of developmental toxicity is appropriate for this purpose, and supports at the molecular level the notion that *in vitro* developmental toxicity tests need not cover the entire gestation period.

The paper also indicates the potential of proteomic analysis in the mechanism-based safety evaluation of developmental toxicants. The candidate protein biomarkers identified by the proteomic analysis have known functions in the normal developmental process, suggesting that their interference by toxic chemicals is a possible mechanism of developmental toxicities. Thus, the responses of these protein biomarkers to developmental toxicants also provide mechanistic information. In addition, when two or more chemicals cause similar responses of mechanistic biomarkers, their toxic interaction is suggested. In the future, selected critical protein biomarkers will enable the use of simple and high-throughput methods, such as ELISA and protein chip in place of 2DE and mass spectrometry analysis for developmental toxicity tests.

Finally, it was shown that the use of the EST as an *in vitro* developmental toxicity test combined with proteomic analysis provided a verification method for mechanisms of developmental toxicity in humans. The responses of protein biomarkers to the test chemicals were similar between the mouse and human ESTs. These similarities indicate the possibility that the same molecular mechanisms work in humans. This is important because human homolog proteins may have distinct roles. Once the molecular mechanisms are verified, accurate extrapolation of developmental toxicity data to humans will become possible.

Expert commentary

It is clear that proteomic analyses are useful for developmental toxicology investigations, and the amount of data on protein-expression changes induced by chemicals are gradually increasing. Those proteins with expression changes induced by chemicals have been considered as biomarkers for developmental toxicity, but their relationships to toxic mechanisms are not elucidated experimentally in most cases. It is important to determine whether the protein-expression changes are the cause of subsequent toxic effects, are an adaptive response to toxic effects or are a consequence of toxic effects. The causative protein-expression changes are critically important and most useful as biomarkers for mechanism-based

safety evaluation. Thus, the identification of the causative expression changes from candidate biomarkers is the next step to reach in proteomic analysis in developmental toxicology. For this purpose, *in vitro* developmental toxicity tests such as the EST can be used again where the protein expression can be increased or decreased by techniques such as transfection and RNA interference.

The cluster analysis of proteomic data in developmental toxicity test is useful, as demonstrated in the evaluated paper. Although the investigators used all the data on protein-expression changes without pretreatment, we think that data selection and some weighting factor should be taken into account because there must have been toxicologically meaningless protein-expression changes. Furthermore, inclusion of other toxicological data, such as structure–activity relationships and materno–embryonic toxicokinetics of test chemicals, will make the cluster analysis more valuable. Thus, the establishment of proteomic data analysis methods for developmental toxicity evaluation is the next issue.

Five-year view

In the next 5 years, we anticipate that the usefulness of many protein biomarkers for mechanism-based safety evaluation of developmental toxicants will be verified. *In vitro* developmental toxicity data supported by proteomic analysis may be used for actual safety evaluation of chemicals if human exposure to the chemicals is limited and structure–activity data are available from their related chemicals.

Financial & competing interests disclosure

The authors have no relevant affiliations or financial involvement with any organization or entity with a financial interest in or financial conflict with the subject matter or materials discussed in the manuscript. This includes employment, consultancies, honoraria, stock ownership or options, expert testimony, grants or patents received or pending, or royalties.

No writing assistance was utilized in the production of this manuscript.

Key issues

- Mechanism-based safety evaluation and reduction of animal use are important issues in developmental toxicology.
- Validated *in vitro* developmental toxicity tests, such as the embryonic stem cell test (EST) and proteomic analysis appear useful for mechanism-based safety evaluation with minimal use of animals.
- Groebe *et al.* applied proteomic analysis to the mouse EST systematically with a sufficient number of model test chemicals for cluster analysis for the first time.
- Developmental toxicants can be classified by cluster analysis of protein-expression changes in the EST consistently with *in vitro* and *in vivo* developmental toxicities.
- Heat-shock protein β-1, Ras-GTPase-activating protein SH3-domain binding protein, Ran-binding protein 5, calreticulin and dihydropyrimidinase-like 2 were identified as candidate protein biomarkers for embryotoxicity in the EST.
- The responses of protein biomarkers to the test chemicals are similar between the mouse and human ESTs.
- Identification of the causative protein-expression changes is the next step that needs to be achieved in proteomic analysis in developmental toxicology.
- Establishment of proteomic data analysis methods for developmental toxicity evaluation is the next issue.
- *In vitro* developmental toxicity data supported by proteomic analysis may be used for actual safety evaluations in the near future.

References

Papers of special note have been highlighted as:
•• of considerable interest

1 Ozolinš TRS. Use of mammalian *in vitro* systems, including embryonic stem cells, in developmental toxicity testing. In: *Developmental Toxicology.* Deborah KH, Abbott BD (Eds). Informa Healthcare, NY, USA, 171–213 (2008).
•• **Excellent review on validated *in vitro* developmental toxicity tests.**

2 Chen H, Boontheung P, Loo RR *et al.* Proteomic analysis to characterize differential mouse strain sensitivity to cadmium-induced forelimb teratogenesis. *Birth Defects Res. A. Clin. Mol. Teratol.* 82(4), 187–199 (2008).

3 Shi X, Yeung LW, Lam PK, Wu RS, Zhou B. Protein profiles in zebrafish (*Danio rerio*) embryos exposed to perfluorooctane sulfonate. *Toxicol. Sci.* 110(2), 334–340 (2009).

4 Groebe K, Hayess K, Klemm-Manns M *et al.* Protein biomarkers for *in vitro* testing of embryotoxicity. *J. Proteome Res.* 9(11), 5727–5738 (2010).
•• **Describes the systematic application of proteomic analysis in the embryonic stem cell test.**

Int. J. Dev. Biol. 54: 1277-1285 (2010)
doi: 10.1387/ijdb.092993mu

THE INTERNATIONAL JOURNAL OF DEVELOPMENTAL BIOLOGY
www.intjdevbiol.com

Complement component C3 functions as an embryotrophic factor in early postimplantation rat embryos

MAKOTO USAMI*,[1], KATSUYOSHI MITSUNAGA[2], ATSUKO MIYAJIMA[1], MOMOKO SUNOUCHI[1] and OSAMU DOI[3]

[1]Division of Pharmacology, National Institute of Health Sciences, Tokyo, [2]School of Pharmaceutical Sciences, Toho University, Chiba and [3]Laboratory of Animal Reproduction, United Graduate School of Agricultural Science, Gifu University, Gifu, Japan

ABSTRACT A presumed embryotrophic factor for early postimplantation rat embryos, partially purified from rat serum, was identified as complement component C3 (C3), the central component of the complement system, by sequence analysis of its N-terminal. Purified rat C3 showed embryotrophic activity for rat embryos cultured from day 9.5 of gestation for 48 h in the culture medium composed of rabbit serum. The maximum embryotrophic activity of C3 was observed around 0.5 mg/ml, a level which is lower than rat serum C3 levels. In the culture medium composed of rat serum, cultured rat embryos selectively consumed C3, and C3-depletion by cobra venom factor affected embryonic growth. Inactivation of the internal thiolester bond of C3, the critical functional site for its activity in the complement system, by methylamine had no effects on its embryotrophic activity. Purified rabbit C3 had only weak embryotrophic activity for cultured rat embryos, suggesting species specificity of the embryotrophic activity of C3. Immunochemical analyses showed the specific presence of C3 on the visceral yolk sac, but not on the embryo proper of day 9.5 or 10.5 rat embryos both *in utero* and *in vitro*. In analysis using fluorescein-labeled rat C3, unfragmented C3s bound to the visceral yolk sac stronger than C3b, the primary active fragment of C3 in the complement system. These results indicate that C3, which has always been considered to be detrimental to embryos, functions as an embryotrophic factor by novel mechanisms probably through the visceral yolk sac. The present study thus provides new insights into functions of C3 and postimplantation embryonic growth.

KEY WORDS: *C3, embryotrophic factor, postimplantation growth, rat embryo, yolk sac*

Introduction

In early postimplantation mammalian embryos, extensive cell proliferation and differentiation occur for the major organogenesis, and therefore it is considered that embryotrophic factors play important roles. Culture of postimplantation rodent embryos has been widely used for the investigation of embryotrophic factors since it allows the embryos to grow in rat serum as well as in the uterus (Morriss-Kay, 1993). So far, many known nutrients and growth factors in serum, such as glucose, pantothenic acid, riboflavin, inositol, folic acid, niacinamide, methionine, iron, hemoglobin, transferrin, epidermal growth factor, insulin, insulin-like growth factors, vasoactive intestinal peptide, prolactin, activity-dependent neurotrophic factor, basic fibroblast growth factor, vascular endothelial growth factor, platelet-derived endothelial growth factor and platelet-derived growth factor, have been shown to have embryotrophic activity (Cockroft, 1979; Flynn *et al.*, 1987; Klug *et al.*, 1990; Young *et al.*, 1997; Pratten, 1998; Travers *et al.*, 1992; Gressens *et al.*, 1993; Karabulut *et al.*, 1999; Glanzer *et al.*, 1999; Ulger *et al.*, 2000; Price *et al.*, 2003).

There remain, however, unidentified embryotrophic factors in serum that are difficult to investigate because cultured rodent embryos require high concentrations of serum in the culture

Abbreviations used in this paper: C3, complement component C3; CVF, cobra venom factor; FITC, fluorescein-4-isothiocyanate; HBSS, Hanks' balanced salt solution.

***Address correspondence to:** Makoto Usami. Division of Pharmacology, National Institute of Health Sciences, 1-18-1 Kamiyoga, Setagaya, Tokyo 158-8501, Japan. Fax: +81-3-3707-6950. e-mail: usami@nihs.go.jp

Accepted: 31 December 2009. *Final author corrected PDF published online:* 20 July 2010. *Edited by:* Patrick Tam.

ISSN: Online 1696-3547, Print 0214-6282
© 2010 UBC Press
Printed in Spain

medium. In a previous study, we partially purified and characterized an embryotrophic factor for early postimplantation rat embryos from rat serum (Usami and Ohno, 1996). For this purpose, rabbit serum has been used as a basal culture medium because it is non-toxic and lacks embryotrophic activity for rat embryos, which is complemented by the addition of this embryotrophic factor (Usami *et al.*, 1992). This embryotrophic factor was an acid-labile glycoprotein with *Mr* 180×10^3, and had disulfide bonds and no affinity for heparin. By electrophoretic analysis, a protein presumed to be the embryotrophic factor was identified as a heterodimer composed of band a and b proteins, with *Mr* 116×10^3 and 62×10^3 respectively, linked by disulfide bonds (Usami and Ohno, 1996).

In the present study, we identified this presumed embryotrophic factor as complement component C3 (C3), the central component of the complement system (Law and Reid, 1995). We further showed that the critical functional site or primary active fragment of C3 in the complement system is not involved in the embryotrophic activity, and that C3 is present and binds on the visceral yolk sac specifically.

Results

Identification of the presumed embryotrophic factor as C3

To identify the presumed embryotrophic factor, sequences of twenty amino acids from the N-termini of the band a and b proteins of the partially purified embryotrophic factor were determined by microsequencing (Fig. 1A). Homology search of a protein database indicated that these sequences matched completely with those of the α- and β-chains of rat C3 (Swiss-Prot accession No. P01026). Purified rat C3 had the same electrophoretic pattern as the partially purified embryotrophic factor (Fig. 1A). The biochemical characters of C3 (Daha *et al.*, 1979; Lambris *et al.*, 1994) are consistent with those of the embryotrophic factor described above. The presumed embryotrophic factor was thus identified as C3.

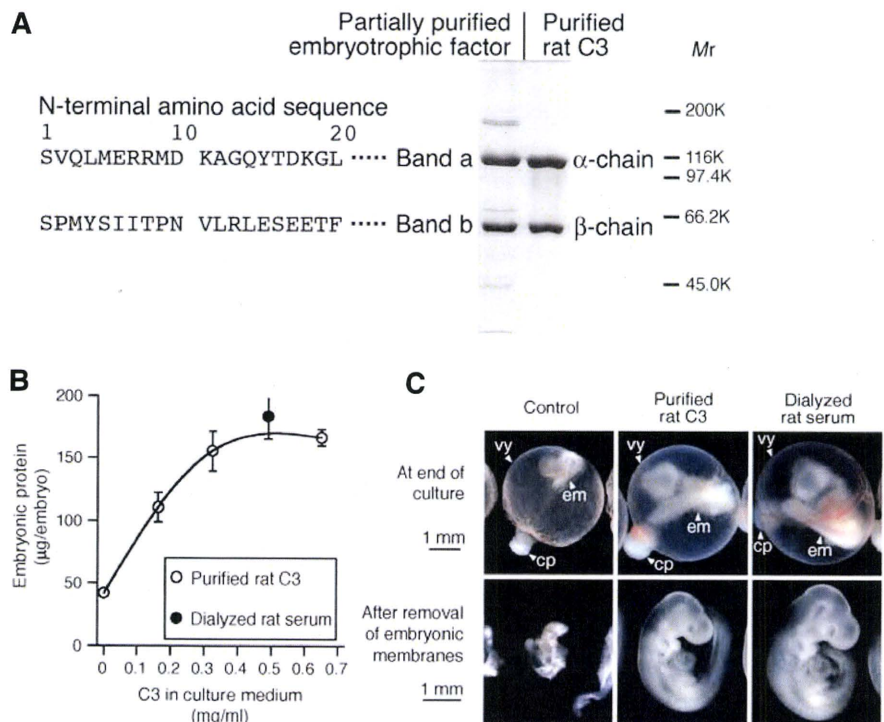


Fig. 1. Identification of the presumed embryotrophic factor as C3. (A) *N-terminal amino acid sequences of the presumed embryotrophic factor with electrophoretic patterns of the partially purified embryotrophic factor and purified rat C3. The single-letter amino acid code was used. Proteins (2 µg/10 µl) were applied on each lane and stained with Coomassie Brilliant Blue (CBB).* **(B)** *Dose-response relationship of embryotrophic activity of C3 as determined by embryonic protein of rat embryos cultured from day 9.5 for 48 h in the culture medium composed of rabbit serum. Means of six embryos are shown. Error bars represent s.e.m.* **(C)** *Appearance of rat embryos cultured in rabbit serum with the addition of rat C3. The concentration of purified rat C3 in the culture medium was 0.65 mg/ml. cp, chorio-allantoic placenta; em, embryo proper; vy, visceral yolk sac.*

Embryotrophic activity of C3 was examined by the addition of C3 purified from rat plasma to the culture medium composed of rabbit serum in the culture of day 9.5 rat embryos for 48 h. The addition of C3 increased embryonic protein with the maximum and a plateau around 0.5 mg/ml of C3 (Fig. 1B). This concentration was comparable to the C3 concentration obtained by the addition of dialyzed rat serum and was therefore lower than rat serum C3 levels. The embryos also showed morphological growth by the addition of C3 (Fig. 1C).

C3 and growth of rat embryos in the medium composed of rat serum

Consumption of C3 in the culture medium composed of rat serum by rat embryos was determined in order to deny the possibility that rat C3 is required only for rat embryos cultured in rabbit serum and to confirm the embryotrophic activity of C3. To accelerate the consumption of culture medium constituents, the number of embryos per culture bottle was increased; six or nine embryos in addition to usual three embryos were cultured in a bottle containing a fixed amount (4 ml) of rat serum as a culture medium. The concentration of C3 in the culture medium at the end of culture was decreased linearly with the increased embryonic protein per culture bottle at a greater rate compared to those of total protein, albumin and transferrin, indicating selective consumption of C3 by the embryos in accordance with their growth (Fig. 2A). Albumin and transferrin synthesis by the cultured embryos are not considered to account for these changes because at this embryonic stage albumin synthesis is not detected (Williams *et al.*, 1986) and maternal transferrin is the primary source (Huxham and Beck, 1985). Glucose, the major energy source at this embryonic stage (Tanimura and Shepard, 1970),

was decreased most markedly and was almost exhausted with nine embryos per bottle, suggesting that its amount was a limiting factor for embryonic growth under these culture conditions.

The embryotrophic activity of C3 was further confirmed by the culture of rat embryos in the culture medium composed of C3-depleted rat serum. To deplete C3, cobra venom factor (CVF) was added to the culture medium before culture. By the addition of CVF, which specifically cleaves C3 into C3a and C3b fragments, embryonic protein was decreased, and the morphological growth of the embryo was inhibited (Fig. 2 B,C). The electrophoretic analysis of the culture medium with the addition of CVF confirmed the specific depletion of C3 as indicated by the disappearance of the C3 α-chain (Fig. 2D). Unfortunately, the addition of rat C3 with CVF (CVF+C3) did not improve the inhibited embryonic growth (Fig. 2 B,C), probably because the additional C3 was also degraded by CVF and could not increase the amount of active C3 in the culture medium in spite of the increased C3 β-chain (Fig. 2D). It was noted that the α'-chain that should be produced by CVF from the α-chain of C3 was not detected indicating its degradation. Although there is a possibility that CVF directly affect the embryonic growth, there were no overt effects at its lower concentrations where depletion of C3 in the culture medium did not occur (data not shown). It is considered from these results that C3 functions as an embryotrophic factor for rat embryos not only in the culture medium composed of rabbit serum but also in rat serum, the usual culture medium supporting the normal embryonic growth as well as in the uterus.

Embryotrophic activity of methylamine-C3 and C3b

Involvement of the internal thiolester bond of C3 in the embryotrophic activity was examined to investigate the mechanisms of this activity since this bond is known as the critical functional site of C3 in the complement system (Law and Dodds, 1997). The internal thiolester bond of purified rat C3 was inactivated by its methylamine treatment (methylamine-C3), which can be confirmed by loss of its hemolytic activity (Law *et al.*, 1980). Hemolytic activity of methylamine-C3 was about 4% compared to that of C3 (Fig. 3A). The addition of methylamine-C3 to the culture medium composed of rabbit serum, however, increased embryonic protein to the same extent as the addition of C3 (Fig. 3A), indicating that the internal thiolester bond of C3 was not involved in the embryotrophic activity.

Embryotrophic activity of C3b, known as the primary active fragment of C3 in the complement system (Law and Reid, 1995), was also examined by the culture of rat embryos in the culture medium composed of rabbit serum to investigate the mechanisms of this activity. C3b prepared with activated CVF had the α'-chain smaller than the α-chain by the *Mr* of C3a, about 10,000, as shown by electrophoretic analysis (Fig. 3B). The addition of C3b to the culture medium did not increase the embryonic protein but decreased it (Fig. 3C). The morphological growth of the embryos was also inhibited by the addition of C3b (Fig. 3D). Western blot

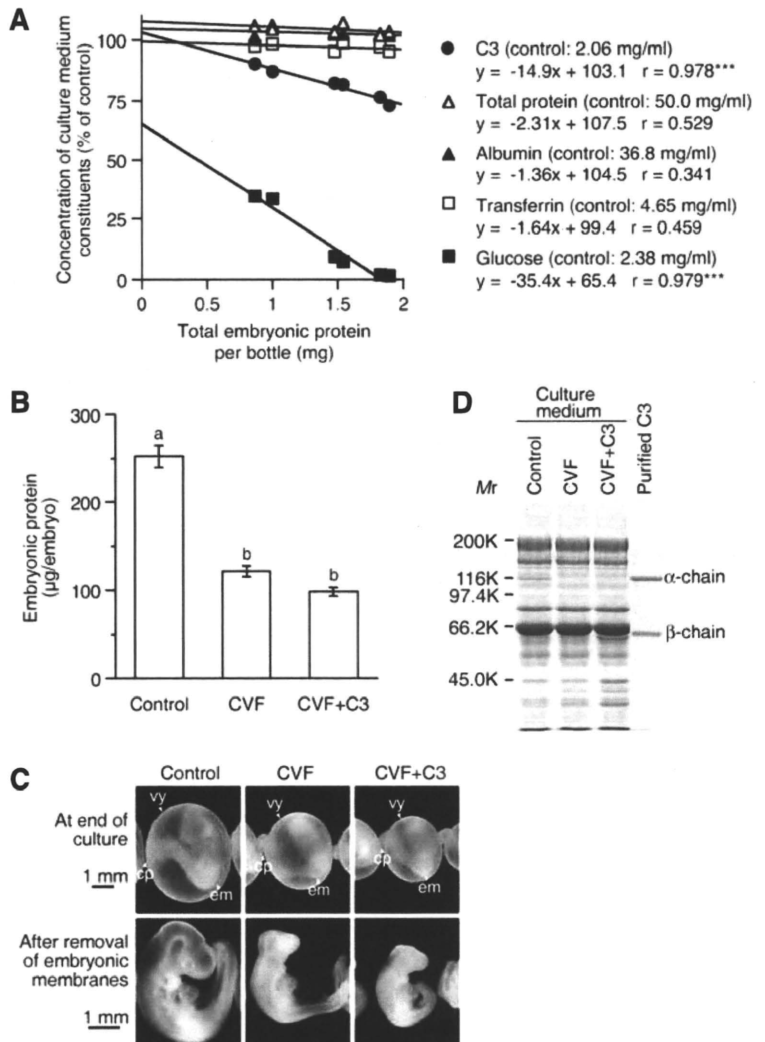
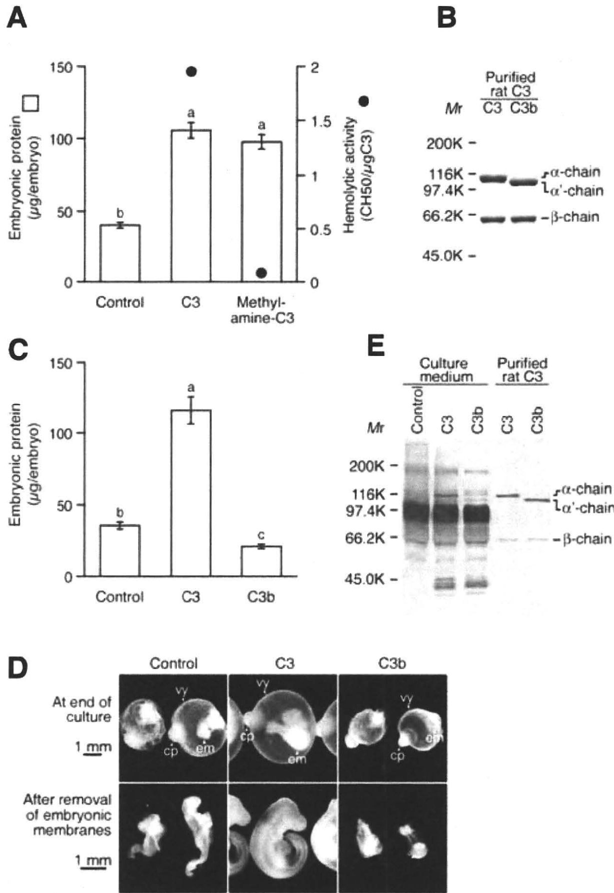


Fig. 2. C3 and growth of rat embryos in the culture medium composed of rat serum. (A) *Consumption of culture medium constituents by rat embryos cultured in rat serum. Three, six or nine embryos were cultured from day 9.5 for 48 h in a bottle containing 4 ml of rat serum. Plots of total embryonic protein versus concentration of culture medium constituents at the end of culture are shown. Each data point represents an individual bottle. Equations of the estimated regression line and correlation coefficients for each constituent are shown. Asterisks indicate statistical significance (***, P<0.001).* **(B)** *Embryonic protein of rat embryos cultured from day 9.5 for 48 h in C3-depleted rat serum. CVF (0.5 µg/10 µl/bottle) and C3 (0.25 mg/ml) were added to the culture medium composed of rat serum 30 min before culture. Means of six embryos are shown. Error bars represent s.e.m. Values with the same letter are not significantly different (P<0.05).* **(C)** *Appearance of rat embryos cultured in C3-depleted rat serum. cp, chorio-allantoic placenta; em, embryo proper; vy, visceral yolk sac.* **(D)** *Electrophoretic analysis of the culture medium composed of rat serum after the culture. The culture media (150 nl/15 µl) were applied on each lane and their proteins were stained with CBB.*

analysis of the culture media after the culture showed no α'-chain in the culture medium added with C3b, indicating the degradation of C3b during the culture (Fig. 3E). The trace amount of CVF in the C3b, if any, is considered not enough to affect the embryonic growth either directly or indirectly, since it loses C3-cleaving activity during the preparation of C3 for the culture experiment and its amount is much less than that of C3b. Similarly, the addition of C3a prepared with activated CVF did not increase the embryonic protein (data not shown). From these results it is suggested that C3b has no embryotrophic activity.

Embryotrophic activity of rabbit C3 for rat embryos

Purified rabbit C3 was added to the culture medium composed of rabbit serum to examine its embryotrophic activity for rat em-



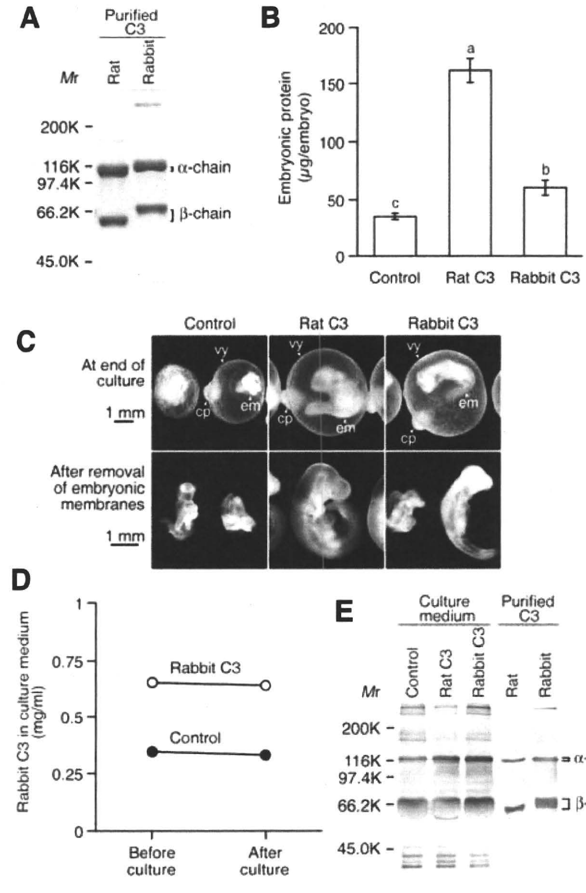


Fig. 3 (Left). Embryotrophic activity of methylamine-C3 and C3b. (A) *Embryonic protein of rat embryos cultured from day 9.5 for 48 h in rabbit serum with the addition of C3 or methylamine-C3 (0.30 mg/ml). Means of six embryos are shown. Error bars represent s.e.m. Values with the same letter are not significantly different (P<0.05).* **(B)** *Electrophoretic analysis of C3b prepared with activated CVF. C3 or C3b (2 μg/10 μl) were applied on each lane and stained with CBB.* **(C)** *Embryonic protein of rat embryos cultured from day 9.5 for 48 h in rabbit serum with the addition of C3 (0.41 mg/ml) or C3b (0.46 mg/ml). Means of six embryos are shown. Error bars represent s.e.m. Values with the same letter are not significantly different (P<0.05).* **(D)** *Appearance of rat embryos cultured in rabbit serum with the addition of C3 or C3b. cp, chorio-allantoic placenta; em, embryo proper; vy, visceral yolk sac.* **(E)** *Western blot analysis of the culture media composed of rabbit serum after the culture with the addition of C3 or C3b. The culture media (100 nl/5 μl) were applied on each lane and their C3s were detected with rabbit anti-rat C3 IgG. C3 and C3b samples were diluted at the same ratio as in the culture media. Extra broad bands are due to rabbit IgG reacted with the secondary antibody.*

Fig. 4 (Right). Embryotrophic activity of rabbit C3 for rat embryos. (A) *Electrophoretic analysis of purified rabbit C3. Purified C3s (2.5 μg/10 μl) were applied on each lane and stained with CBB.* **(B)** *Embryonic protein of rat embryos cultured from day 9.5 for 48 h in rabbit serum with the addition of rat or rabbit C3 (0.31 mg/ml). Means of six embryos are shown. Error bars represent s.e.m. Values with the same letter are not significantly different (P<0.05).* **(C)** *Appearance of rat embryos cultured in rabbit serum with the addition of rat or rabbit C3. cp, chorio-allantoic placenta; em, embryo proper; vy, visceral yolk sac.* **(D)** *Concentrations of rabbit C3 in the culture medium composed of rabbit serum before and after the culture with or with out the addition of rabbit C3. The concentrations were determined by SRID. Means of two bottles are shown.* **(E)** *Western blot analysis of the culture media after the culture. The culture media (250 nl/5 μl) were applied on each lane and their C3s were detected with goat anti-rabbit C3 IgG. Rat and rabbit C3 samples were diluted at the same ratio as in the culture media.*

bryos. This is because the concentration of C3 in rabbit serum (0.43 mg/ml) is only about one-fifth of that in rat serum (2.06 mg/ml) and might be quantitatively insufficient for the growth of rat embryos cultured in rabbit serum. Rabbit C3 purified from rabbit plasma had somewhat larger molecular weights than rat C3 for both α- and β-chains as shown by electrophoretic analysis (Fig. 4A). The addition of rabbit C3 to the culture medium increased embryonic protein of cultured rat embryos by only one-fifth of the increase by the same amount of rat C3 (Fig. 4B). The morphological growth of the embryos was also poor with the addition of rabbit C3 (Fig. 4C).

Because the degradation of rabbit C3 might be the cause of its weak embryotrophic activity for rat embryos, the amount of rabbit C3 in the culture medium were determined by SRID and Western blot analysis. With the addition of purified rabbit C3, the concentration of rabbit C3 in the culture medium became as twice as that of the control group, and almost the same before and even after the culture (Fig. 4D). With the addition of rabbit C3, more amounts of the α- and β-chains of rabbit C3 were detected in the culture medium after the culture (Fig. 4E), supporting that significant degradation of rabbit C3 did not occur during the culture. From these results, rabbit C3 is considered to have only weak embryotrophic activity for rat embryos.

Detection of C3 in rat embryos

The presence and distribution of C3 in day 9.5 or 10.5 rat pregnant uteri corresponding to the cultured embryos were examined to investigate the embryotrophic activity of C3 *in utero*. Immunohistochemistry of C3 in the rat pregnant uteri using anti-rat C3 IgG showed the presence of C3 that is considered to be derived from maternal blood sinus in the decidual tissue (Fig. 5). In day 9.5 embryos, C3 was detected on the visceral yolk sac but not on the embryo proper although the embryo proper faces maternal C3 in the yolk cavity the same as the visceral yolk sac does (Fig. 5, left panels). In day 10.5 embryos, C3 was detected on the visceral yolk sac but not on the embryo proper, which was enveloped in the visceral yolk sac (Fig. 5, right panels).

The presence and distribution of C3 was further examined *in vitro* in rat embryos explanted at day 9.5 or 10.5 (Fig. 6A) by confocal microscopy using FITC-anti C3 IgG. In day 9.5 embryos, C3 was detected as fluorescence on the visceral yolk sac but not on the embryo proper as in the immunohistochemistry in the pregnant uteri (Fig. 6B, upper left panel), which was obvious when confocal images were captured by aligning the focal plane to the surface of the visceral yolk sac (Fig. 6B, lower left panel). In day 10.5 embryos, C3 was detected on the visceral yolk sac, while the embryo proper enveloped by the visceral yolk sac could not be seen (Fig. 6B, right panels). The fluorescence of FITC-anti C3 IgG was disappeared by the addition of C3 that neutralized anti-C3 IgG, indicating the specificity of this method (data not shown). It is considered from these results that C3 can function as an embryotrophic factor through the visceral yolk sac both *in utero* and *in vitro*.

Binding of C3 to rat embryos

The binding of C3 to rat embryos explanted at day 9.5 or 10.5 corresponding to the cultured embryos was examined by confocal microscopy using FITC-C3. In both day 9.5 and 10.5 embryos, fluorescence was observed only on the visceral yolk sac (Fig. 6C, upper panels) and disappeared by the addition of rat C3 as a competitor, indicating the specific binding of C3 to the visceral yolk sac. This fluorescence was weak, probably because the C3 binding sites was already occupied by maternal C3 in the uterus, which could not be removed by preincubation of the embryos in rabbit serum or in HBSS (data not shown). By the addition of methylamine-C3 or rabbit C3 as competitors, the fluorescence also disappeared showing the binding of these unfragmented C3s to the visceral yolk sac (data not shown). However, the fluorescence remained, although weakened, on the visceral yolk sac when C3b was added as a competitor (Fig. 6C, lower panels). These results indicate that the unfragmented C3s bound to the visceral yolk sac stronger than C3b, which is compatible with the embryotrophic activity of the C3s and C3b in the present experiments.

Discussion

The present results indicate that C3 functions as an embryotrophic factor in early postimplantation rat embryos probably through the visceral yolk sac. Uninvolvement of the internal thiolester bond of C3 in the embryotrophic activity indicates mechanisms different from those for activation of the complement system, because the covalent binding by this bond is critical for the activities of C3 as a component of the complement system in both classical and alternative pathways (Law and Dodds, 1997). This is supported by the present findings that the unfragmented C3s, including methylamine-C3, bound to the visceral yolk sac as the possible action site stronger than C3b, which binds to known specific receptors as the primary active fragment of C3 in the

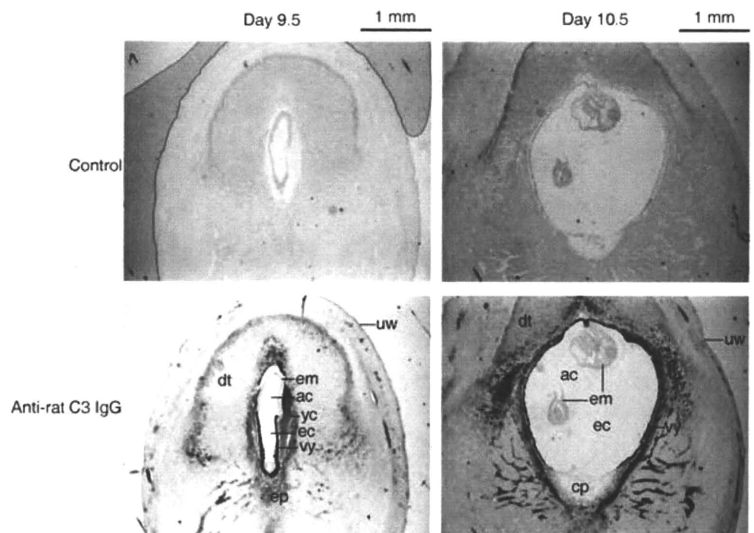


Fig. 5. Detection of C3 in rat pregnant uteri. *Transverse sections of day 9.5 or 10.5 rat pregnant uteri were immunostained with anti-rat C3 IgG. The dark area indicates the presence of C3. The mesometrium side is at the bottom. ac, amniotic cavity; cp, chorio-allantoic placenta; dt, decidual tissue; ec, exocoelomic cavity; em, embryo proper; ep, ectoplacental cone; uw, uterine wall; yc, yolk sac cavity; vy, visceral yolk sac.*

complement system (Law and Reid, 1995).

The mechanisms of the embryotrophic activity of C3 are not known at present. The binding of C3 together with its selective consumption in the culture medium suggests the involvement of some receptor for C3 on the visceral yolk sac. In this context, it is noteworthy that LR8, a chicken lipoprotein receptor, binds and transport C3 from the yolk to the oocyte in the egg (Recheis *et al.*, 2005). This is because megalin (LRP-2/GP330), a mammalian close relative of LR8 and a multiligand endocytic receptor belonging to the low-density-lipoprotein receptor (LDLR) family, is expressed on the visceral yolk sac in accordance with the binding of C3 in the present study (Drake *et al.*, 2004). Although known ligands for megalin includes albumin and transferrin but not C3 at present (Christensen and Birn, 2002), megalin or some LDLR relative might be involved in the embryotrophic activity of C3. After the binding to the visceral yolk sac, C3 seems to be degraded and not to be recycled, since many C3 fragments, but not unfragmented C3, are detected in the visceral yolk sac by proteome analysis (Usami *et al.*, 2007).

The function of C3 as an embryotrophic factor in postimplantation rat embryos is a surprise because the complement system in the culture medium has been considered detrimental to the embryos. It has been shown that heat-inactivation of the complement system at 56°C for 30 min in rat serum as a culture medium improves the growth of cultured rat embryos (New *et al.*, 1976). Seemingly this is inconsistent with the embryotrophic activity of C3. However, the complement components heat-inactivated under these conditions do not include C3, but C1q and factor B (Law and Reid, 1995) that consume C3 on complement activation. Furthermore, the degradation products of C3 may inhibit embryonic growth as observed with the addition of C3b in the present study. The improved embryonic growth by the heat-inactivation may be due to the protection of C3 from its consumption by the activated complement system.

There seems species specificity in the embryotrophic activity of C3 because rabbit C3 was less effective for rat embryos in spite of its phylogenetically close relationship to rat C3 (Lambris *et al.*, 1994) and rabbit embryos can be cultured well in rabbit serum (Ninomiya *et al.*, 1993). Uninvolvement of the internal thiolester bond, the region most conserved across species (Lambris *et al.*, 1994), in the embryotrophic activity of C3 is consistent with this species specificity. It is expected that comparisons of primary structures of C3 among various species would reveal the functional site of C3 as an embryotrophic factor. This is because some heterologous C3s, such as human and bovine C3, seem effective for cultured rat embryos, supporting their growth satisfactory (Chatot *et al.*, 1980; Klug *et al.*, 1990). In mammals, the complete primary structures of C3 are available for rats (Misumi *et al.*, 1990), mice (Lundwall *et al.*, 1984; Wetsel *et al.*, 1984), humans (De Bruijn and Fey, 1985) and guinea pigs (Auerbach *et al.*, 1990) at present. Unfortunately, only partial primary structures of C3 are available for rabbits (Kusano *et al.*, 1986).

There may be stage specificity in the embryotrophic activity of C3. This is because rat embryos at later developmental stages could grow in synthetic culture media without the addition of C3. Day 14 rat embryos were successfully cultured for 26 h in a chemically defined culture medium of Earle's balanced salt solution and 0.7% bovine serum albumin (Barber *et al.*, 1993). On the other hand, a culture method for day 11.5 rat embryo with Dulbecco's minimal essential medium/Ham's F12 supplemented with 20% fetal bovine serum was not applicable to day 10.5 rat

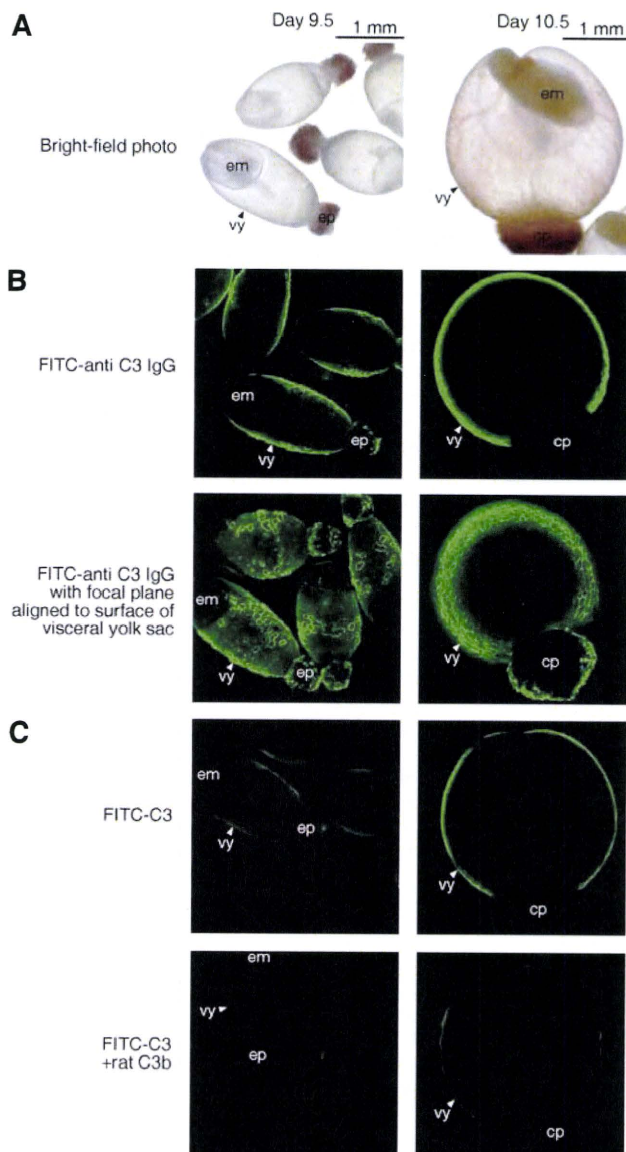


Fig. 6. Detection and binding of C3 in rat embryos explanted at day 9.5 or 10.5. (A) *Bright field photos of explanted rat embryos.* **(B)** *Detection of C3 on rat embryos. Embryos were incubated with FITC-anti C3 IgG (25 μg/ml) and the fluorescence was observed by confocal microscopy. The binding specificity was confirmed by disappearance of the fluorescence with the addition of rat C3 (2.5 mg/ml).* **(C)** *Binding of C3 to rat embryos. Rat embryos were incubated with FITC-C3 (25 μg/ml), and the fluorescence was observed by confocal microscopy. Binding of rat C3, methylamine-C3, rabbit C3 and rat C3b was examined by their addition as competitors at a 100-fold higher concentration (2.5 mg/ml). The bright area indicates the fluorescence by FITC-anti C3 IgG or FITC-C3. cp, chorio-allantoic placenta; em, embryo proper; ep, ectoplacental cone; vy, visceral yolk sac.*

embryos (Ornoy *et al.*, 2003).

The present findings strengthen the role of C3 in a broad range of the reproductive process, from fertilization to embryonic growth, in vertebrates although the site and mechanisms of its action seem different. It has been shown that C3b bound to membrane cofactor protein (MCP), or C3-like factor bound to complement receptors CR1 and CR3 is involved in the fertilization of humans and frogs (Anderson *et al.*, 1993; Cervoni *et al.*, 1992; Llanos *et al.*, 2000). Phagocytic activity in mouse placental trophoblasts is enhanced by C3b probably through CR1 (Albieri *et al.*, 1999; Amarante-Paffaro *et al.*, 2004). Furthermore, embryotrophic function of iC3b, the cleaved product of C3b, in mouse blastocysts probably through the rodent complement receptor-related protein y (Crry) and CR3 has been reported (Lee *et al.*, 2004).

On the contrary to the embryotrophic activity of C3, no reproductive failures have been shown in C3-deficient individuals, such as those of humans, guinea pigs, dogs, rabbits and mice (Bitter-Suermann and Burger, 1989; Wessels *et al.*, 1995), other than mild impairment of pregnancy including higher resorption rate, in C3-knockout mice (Chow *et al.*, 2009). Probably, this means that some trophic and/or anatomical factor can functionally compensate for C3 as an embryotrophic factor *in utero* under C3-deficient conditions. Such functional compensation might involve the increase of the C3-related proteins, such as α2-macroglobulin (Campbell *et al.*, 1986), during pregnancy. α2-Macroglobulin, which is depleted in the culture medium by rat embryos (Priscott *et al.*, 1983), is markedly increased in maternal blood (Panrucker *et al.*, 1983) and synthesized in the uterine decidua (Gu *et al.*, 1995) in rats. In mice, endometrial α2-macroglobulin is suggested to regulate the blastocyst development (Sayegh *et al.*, 1997).

The embryotrophic activity of C3 seems to be one explanation for the significance of C3 synthesized locally in the uterus. It has been indicated that C3, mostly synthesized in the liver, is also synthesized in the uterine endometrium of various species including rats (Sundstrom *et al.*, 1989) and humans (Sayegh *et al.*, 1996), which is stimulated by estradiol or chorionic gonadotropin and inhibited by progesterone (Brown *et al.*, 1990; Sherwin *et al.*, 2007). It is suggested from the present findings that uterine C3 functions as an embryotrophic factor at earlier embryonic stages when the maternal blood sinus is not yet formed. This notion is supported by the growth promoting activity of other locally synthesized C3, such as observed for blastocyst and osteoclast development in mice (Lee *et al.*, 2004; Sato *et al.*, 1993), B lymphocyte proliferation in mice (Cahen-Kramer *et al.*, 1994), neural plate formation in frogs (McLin *et al.*, 2008) and limb regeneration in urodeles (Rio-Tsonis *et al.*, 1998).

In conclusion, the present study has revealed new functions of C3 as an embryotrophic factor and of the visceral yolk sac as its possible action site in early postimplantation growth of rat embryos. Further study will lead to deeper understanding of the regulation mechanisms of postimplantation embryonic growth in mammals.

Materials and Methods

Embryo culture

Postimplantation embryos explanted from Wistar rats (Crlj: WI, Charles River Laboratories Japan, Kanagawa, Japan) at day 9.5 of gestation (plug day = day 0.5) were cultured for 48 h by the roller bottle method (Usami and Ohno, 1996). Three embryos and 4 ml of a culture medium were placed in a 30-ml culture bottle. Rabbit and rat sera used as culture media were prepared by immediate centrifugation after blood collection, and were heat-inactivated at 56°C for 30 min (Morriss-Kay, 1993). For determination of embryotrophic activity, the culture medium was composed of 3 ml of rabbit or rat sera and 1 ml of C3s or C3b. C3s, C3b, CVF and dialyzed rat serum were dialyzed against Hanks' balanced salt solution (HBSS) before the addition to the culture medium. In the control groups, the same amount of HBSS was added to the culture medium. After the culture, embryonic protein content, freed from embryonic membranes, was determined as an index of embryonic growth (Usami and Ohno, 1996). Statistical significance of differences in embryonic protein among the groups was examined by one-way analysis of variance and the Tukey method after log transformation.

Electrophoresis and N-terminal sequence analysis

Sodium dodecyl sulfate-polyacrylamide gel electrophoresis (SDS-PAGE) was performed using 7.5%T mini gels (Laemmli, 1970). Samples were incubated with sample buffer containing 2-mercaptoethanol as a reducing agent at 37°C for 1 h, and were loaded onto the gel. After electrophoresis, the gel was stained with Coomassie Brilliant Blue R-250 (CBB) using Quick-CBB (Wako Pure Chemical, Osaka, Japan) or was subjected to electroblotting.

N-terminal amino acid sequences of proteins were determined by microsequencing (Matsudaira, 1987). Samples were separated by SDS-PAGE and electroblotted to a polyvinylidene difluoride (PVDF) membrane (Trans-Blot 0.2 μm, Bio-Rad, Hercules, CA). Tank blotting was performed with CAPS buffer (10 mM 3-(cyclohexylamino)-1-propane sulfonic acid (CAPS), pH 11, 10% (v/v) methanol) and a transfer cell (Mini Trans-Blot Cell, Bio-Rad) at a constant current at 0.5 A for 30 min. The proteins on the PVDF membrane stained with CBB were cut out and applied to a protein sequencer (PPSQ-10, Shimadzu, Kyoto, Japan). The obtained N-terminal amino acid sequences were searched against the Swiss-Prot database to identify the proteins.

Preparation of C3s, cobra venom factor, C3b and anti-C3 IgGs

Rat and rabbit C3s were purified from EDTA plasma by a fast protein liquid chromatography method (Guiguet *et al.*, 1987) with some modifications (Usami and Ohno, 2005). Methylamine-treated rat C3 (methylamine-C3) was prepared by incubation of purified rat C3 with 100 mM methylamine in 0.01 M phosphate buffered saline (PBS, pH 7.5) at 37°C for 2 h. Hemolytic activity of C3 was determined as CH50 units (Kolb *et al.*, 1979) using C3-deficient human serum (Sigma). CVF was purified from lyophilized cobra venom (*Naja naja kausia*, Wako Pure Chemical), and rat C3b was prepared by cleavage of purified rat C3 with activated CVF (Usami and Ohno, 2005). Rabbit anti-rat C3 IgG was purified from rabbit antiserum obtained by immunization of Japanese White rabbits (Std: JW/CSK, Japan SLC, Shizuoka, Japan) with rat C3 using the MAbTrap GII (GE Healthcare). Rabbit anti-rat C3 IgG was further purified by affinity chromatography with a column (HiTrap NHS-activated HP, 1 ml, GE Healthcare) coupled with rat C3. Goat anti-rabbit C3 IgG was purified in the same manner from goat anti-rabbit C3 antiserum (Cappel, Irvine, CA) using a column coupled with rabbit C3 instead of rat C3.

Western blot analysis

Samples were separated by SDS-PAGE and electroblotted to a nitrocellulose membrane (Trans-Blot 0.45μm, Bio-Rad). Semi-dry blotting was performed with continuous transfer buffer (48 mM Tris, 39 mM glycine, 1.3 mM SDS, 20% methanol) and a transfer cell (Trans-Blot SD Cell, Bio-Rad) at a constant voltage at 15 V with a current limit at 0.41 A/membrane for 30 min. The membrane was stained with rabbit anti-rat C3 IgG and the Immunoblotting ABC-POD (R) Kit (Wako Pure Chemical), or with goat anti-rabbit C3 IgG and the same kit in which the biotin-

conjugated goat anti-rabbit IgG antibody was replaced by biotin-conjugated rabbit anti-goat IgG antibody (Jackson ImmunoResearch, West Grove, PA).

Determination of culture medium constituents

C3s, albumin and transferrin concentrations in rat serum were determined by single radial immunodiffusion (SRID) (Catty and Raykundalia, 1988). For the SRID of C3s and transferrin, rabbit anti-rat C3 antibody, goat anti-rabbit C3 antibody or rabbit anti-rat transferrin antibody (Cappel) with purified rat C3, purified rabbit C3 or rat transferrin (Cappel) as a standard, respectively, was used. For the SRID of albumin, the Bind A Rid for rat albumin 'NL' (Binding Site, Birmingham, UK) was used. Total protein concentration was determined by the Bradford method using the Protein Assay (Bio-Rad) and bovine serum albumin (Wako Pure Chemical) as a standard. Glucose concentration was determined by the glucose oxidase method using the Glucose B-Test Wako (Wako Pure Chemical). Each determination was made in triplicate.

Immunohistochemistry

Pregnant rat uteri at day 9.5 or 10.5 of gestation were cut into pieces as short as the embryo widths. The uterine pieces containing the embryos were fixed in Bouin's fluid, and their paraffin sections 8 µm thick were made. The sections were stained immunohistochemically with rabbit anti-rat C3 IgG and the Pathostain ABC-POD (R) Kit (Wako Pure Chemical). Normal rabbit IgG was used for control staining. Diamino benzidine was used for color development, and no counter staining was made.

Confocal microscopy

Fluorescein-labeled rabbit anti-rat C3 IgG (FITC-anti C3 IgG) and rat C3 (FITC-C3) were prepared by incubation of rabbit anti-rat C3 IgG or rat C3 in 0.25 M $NaHCO_3$ (pH 9.0) mixed with fluorescein-4-isothiocyanate (FITC, Wako Pure Chemical) in dimethylsulfoxide (10 mg/ml) at a ratio of 50 µg FITC per mg protein for 2 or 3 h at room temperature. The incubation mixture was applied on a gel filtration column (5 ml, Sephadex G-10, GE Healthcare) and eluted with PBS (pH7.4) for the separation of the labeled molecule from free FITC. The eluted FITC-anti C3 IgG and FITC-C3, of which the F/P ratio ranged from 3.82 to 5.32, were dialyzed against PBS.

Rat embryos were explanted at day 9.5 or 10.5 of gestation, and were preincubated in rat serum for 30 min so that they would lose adhesiveness to containers and recover from damage due to the explantation procedures. After the preincubation, the embryos were washed six times with ice-cold HBSS containing 0.1% NaN_3 (csHBSS), and were incubated with FITC-anti C3 IgG or FITC-C3 (25 µg/ml) in csHBSS containing 1% bovine serum albumin in the presence or absence of rat C3, methylamine-C3, rabbit C3 or rat C3b (2.5 mg/ml) for 30 min on ice. After the incubation, the embryos were washed six times with csHBSS, and observed for fluorescence with a laser scanning confocal microscope (Radiance 2000, Bio-Rad) and control software (LaserSharp 2000, Bio-Rad) at excitation Ar 488 nm, iris 12, 166 lps, Kalman mode, channel green and 4× magnification with an UPlan Apochromat objective. Gain and offset were adjusted to quench autofluorescence of the control embryo. Much care was taken to obtain images within a few scans because of rapid decay of the fluorescence.

Acknowledgements

This work was partly supported by the ministry of education, science, sports and culture, grant-in-aid for exploratory research, 15658090, 2003-2005.

References

ALBIERI, A., KIPNIS, T. and BEVILACQUA, E. (1999). A possible role for activated complement component 3 in phagocytic activity exhibited by the mouse trophoblast. *Am J Reprod Immunol* 41: 343-352.

AMARANTE-PAFFARO, A., QUEIROZ, G.S., CORRÊ, S.T., SPIRA, B. and BEVILACQUA, E. (2004). Phagocytosis as a potential mechanism for microbial defense of mouse placental trophoblast cells. *Reproduction* 128: 207-218.

ANDERSON, D.J., ABBOTT, A.F. and JACK, R.M. (1993). The role of complement C3b and its receptors in sperm-oocyte interaction. *Proc Natl Acad Sci USA* 90: 10051-10055.

AUERBACH, H.S., BURGER, R., DODDS, A. and COLTEN, H.R. (1990). Molecular basis of complement C3 deficiency in guinea pigs. *J Clin Invest* 86: 96-106.

BARBER, C.V., CARDA, M.B. and FANTEL, A.G. (1993). A new technique for culturing rat embryos between gestation days 14 and 15. *Toxicol In vitro* 7: 695-700.

BITTER-SUERMANN, D. and BURGER, R. (1989). C3 deficiencies. *Curr Top MicroBiol Immunol* 153: 223-233.

BROWN, E.O., SUNDSTROM, S.A., KOMM, B.S., YI, Z., TEUSCHER, C. and LYTTLE, C.R. (1990). Progesterone regulation of estradiol-induced rat uterine secretory protein, complement C3. *Biol Reprod* 42: 713-719.

CAHEN-KRAMER, Y., MÅTENSSON, I.-L. and MELCHERS, F. (1994). The structure of an alternate form of complement C3 that displays costimulatory growth factor activity for B lymphocytes. *J Exp Med* 180: 2079-2088.

CAMPBELL, R.D., CARROLL, M.C. and PORTER, R.R. (1986). The molecular genetics of components of complement. *Adv Immunol* 38: 203-244.

CATTY, D. and RAYKUNDALIA, C. (1988). Gel immunodiffusion, immunoelectrophoresis and immunostaining methods. In *Antibodies* (Ed. D. Catty). IRL Press, Oxford, pp. 137-167.

CERVONI, F., OGLESBY, T.J., ADAMS, E.M., MILESI-FLUET, C., NICKELLS, M., FENICHEL, P., ATOKINSON, J.P. and HSI, B.-L. (1992). Identification and characterization of membrane cofactor protein of human spermatozoa. *J Immunol* 148: 1431-1437.

CHATOT, C.L., KLEIN, N.W., PIATEK, J. and PIERRO, L.J. (1980). Successful culture of rat embryos on human serum: use in the detection of teratogens. *Science* 207: 1471-1473.

CHOW, W.N., LEE, Y.L., WONG, P.C., CHUNG, M.K., LEE, K.F. and YEUNG, W.S. (2009). Complement 3 deficiency impairs early pregnancy in mice. *Mol Reprod Dev* 76: 647-655.

CHRISTENSEN, E.I. and BIRN, H. (2002). Megalin and cubilin: multifunctional endocytic receptors. *Nat Rev Mol Cell Biol* 3: 256-266.

COCKROFT, D.L. (1979). Nutrient requirements of rat embryos undergoing organogenesis *in vitro*. *J Reprod Fert* 57: 505-510.

DAHA, M.R., STUFFERS-HEIMAN, M., KIJLSTRA, A. and VANES, L.A. (1979). Isolation and characterization of the third component of rat complement. *Immunology* 36: 63-70.

DE BRUIJN, M.H.L. and FEY, G.H. (1985). Human complement component C3: cDNA coding sequence and derived primary structure. *Proc Natl Acad Sci USA* 82: 708-712.

DRAKE, C.J., FLEMING, P.A., LARUE, A.C., BARTH, J.L., CHINTALAPUDI, M.R. and ARGRAVES, W.S. (2004). Differential distribution of cubilin and megalin expression in the mouse embryo. *Anat Rec A Discov Mol Cell Evol Biol* 277: 163-170.

FLYNN, T.J., FRIEDMAN, L., BLACK, T.N. and KLEIN, N.W. (1987). Methionine and iron as growth factors for rat embryos cultured in canine serum. *J Exp Zool* 244: 319-324.

GLANZER, G.W., GRESSENS, P., LEE, S.J., GIBNEY, G., GOZES, Y., BRENNEMAN, D.E. and HILL, J.M. (1999). Activity-dependent neurotrophic factor: a potent regulator of embryonic growth and development. *Anat Embryol* 200: 65-71.

GRESSENS, P., HILL, J.M., GOZES, I., FRIDKIN, M. and BRENNEMAN, D.E. (1993). Growth factor function of vasoactive intestinal peptide in whole cultured mouse embryos. *Nature* 362: 155-158.

GU, Y., SRIVASTAVA, R.K., OU, J., KRETT, N.L., MAYO, K.E. and GIBORI, G. (1995). Cell-specific expression of activin and its two binding proteins in the rat decidua: role of α_2-macroglobulin and follistatin. *Endocrinology* 136: 3815-3822.

GUIGUET, M., DETHIEUX, M.-C., EXILIE-FRIGÉE, M.-F., BIDAN, Y., LAUTISSIER, J.-L. and MACK, G. (1987). Third component of rat complement. Purification from plasma and radioimmunoassay in culture media from cell lines. *J Immun*

Methods 96: 157-164.

HUXHAM, I.M. and BECK, F. (1985). Maternal transferrin uptake by and transfer across the visceral yolk sac of the early postimplantation rat conceptus *in vitro. Dev Biol* 110: 75-83.

KARABULUT, A.K., LAYFIELD, R. and PRATTEN, M.K. (1999). The mechanism of growth-promoting effects of prolactin in embryogenesis - Links to growth factors. *Cells Tissues Organs* 164: 2-13.

KLUG, S., LEWANDOWSKI, C., WILDI, L. and NEUBERT, D. (1990). Bovine serum: an alternative to rat serum as a culture medium for the rat whole embryo culture. *Toxicol In vitro* 4: 598-601.

KOLB, W.P., KOLB, L.M. and PODACK, E.R. (1979). C1q: isolation from human serum in high yield by affinity chromatography and development of a highly sensitive hemolytic assay. *J Immunol* 122: 2103-2111.

KUSANO, M., CHOI, N.-H., TOMITA, M., YAMAMOTO, K., MIGITA, S., SEKIYA, T. and NISHIMURA, S. (1986). Nucleotide sequence of cDNA and derived amino acid sequence of rabbit complement C3 α-chain. *Immunol Invest* 15: 365-378.

LAEMMLI, U.K. (1970). Cleavage of structural proteins during the assembly of the head of bacteriophage T4. *Nature* 227: 680-685.

LAMBRIS, J.D., MAVROIDIS, M. and SUNYER, J.O. (1994). Phylogeny of third component of complement, C3. In *New Aspects of Complement Structure and Function* (Ed. A. Erdei). R.G. Landes Company, Georgetown, Texas, pp. 15-34.

LAW, S.K., LICHTENBERG, N.A. and LEVINE, R.P. (1980). Covalent binding and hemolytic activity of complement proteins. *Proc Natl Acad Sci USA* 77: 7194-7198.

LAW, S.K.A. and DODDS, A.W. (1997). The internal thioester and the covalent binding properties of the complement proteins C3 and C4. *Protein Sci* 6: 263-274.

LAW, S.K.A. AND REID, K.B.M. (1995). *Complement.* IRL Press, Oxford.

LEE, Y.-L., LEE, K.-F., XU, J.-S., HE, Q.-Y., CHIU, J.-F., LEE, W.M., LUK, J.M. and YEUNG, W.S.B. (2004). The embryotrophic activity of oviductal cell-derived complement C3b and iC3b, a novel function of complement protein in reproduction. *J Biol Chem* 279: 12763-12768.

LLANOS, R.J., WHITACRE, C.M. and MICELI, D.C. (2000). Potential involvement of C3 complement factor in amphibian fertilization. *Comp Biochem Physiol A Mol Integr Physiol* 127: 29-38.

LUNDWALL, Å., WETSEL, R.A., DOMDEY, H., TACK, B.F. and FEY, G.H. (1984). Structure of murine complement component C3. I. Nucleotide sequence of cloned complementary and genomic DNA coding for the β chain. *J Biol Chem* 259: 13851-13856.

MATSUDAIRA, P. (1987). Sequence from picomole quantities of proteins electroblotted onto polyvinylidene difluoride membranes. *J Biol Chem* 262: 10035-10038.

McLIN, V.A., HU, C.-H., SHAH, R. and JAMRICH, M. (2008). Expression of complement components coincides with early patterning and organogenesis in *Xenopus laevis. Int J Dev Biol* 52: 1123-1133.

MISUMI, Y., SOHDA, M. and IKEHARA, Y. (1990). Nucleotide and deduced amino acid sequence of rat complement C3. *Nucleic Acids Res* 18: 2178.

MORRISS-KAY, G.M. (1993). Postimplantation mammalian embryos. In *Essential Developmental Biology* (Eds. C.D. Stern and P.W.H. Holland). IRL Press, Oxford, pp. 55-66.

NEW, D.A.T., COPPOLA, P.T. and COCKROFT, D.L. (1976). Improved development of head-fold rat embryos in culture resulting from low oxygen and modifications of the culture serum. *J Reprod Fert* 48: 219-222.

NINOMIYA, H., KISHIDA, K., OHNO, Y., TSURUMI, K. and ETO, K. (1993). Effects of trypan blue on rat and rabbit embryos cultured *in vitro. Toxicol In vitro* 7: 707-717.

ORNOY, A., YACOBI, S. and YAFFEE, P. (2003). A simple method of culture of 11.5-day-old rat embryos in DMEM/F12 and 20% fetal bovine serum. *J Anat* 203: 419-423.

PANRUCKER, D.E., LAI, P.C.W. and LORSCHEIDER, F.L. (1983). Distribution of acute-phase α-macroglobulin in rat fetomaternal compartments. *Am J Physiol* 245: E138-142.

PRATTEN, M.K. (1998). The role of exogenous growth-promoting factors and their receptors in embryogenesis. *Reprod Toxicol* 12: 201-207.

PRICE, R.L., HALEY, S.T., BULLARD, T.A., GOLDSMITH, E.G., SIMPSON, D.G., THIELEN, T.E., YOST, M.J. and TERRACIO, L. (2003). Effects of platelet-derived growth factor-AA and -BB on embryonic cardiac development. *Anat Rec Part A* 272A: 424-433.

PRISCOTT, P.K., GOUGH, P.G. and BARNES, R.D. (1983). Serum protein depletion by cultured post-implantation rat embryos. *Experientia* 39: 1042-1043.

RECHEIS, B., RUMPLER, H., SCHNEIDER, W.J. and NIMPF, J. (2005). Receptor-mediated transport and deposition of complement component C3 into developing chicken oocytes. *Cell Mol Life Sci* 62: 1871-1880.

RIO-TSONIS, K.D., TSONIS, P.A., ZARKADIS, I.K., TSAGAS, A.G. and LAMBRIS, J.D. (1998). Expression of the third component of complement, C3, in regenerating limb blastema cells of urodeles. *J Immunol* 161: 6819-6824.

SATO, T., ABE, E., JIN, C.H., HONG, M.H., KATAGIRI, T., KINOSHITA, T., AMIZUKA, N., OZAWA, H. and SUDA, T. (1993). The biological roles of the third component of complement in osteroclast formation. *Endocrinology* 133: 387-404.

SAYEGH, R.A., TAO, X.J., AWWAD, J.T. and ISAACSON, K.B. (1996). Localization of the expression of complement component 3 in the human endometrium by *in situ* hybridization. *J Clin Endocrinol Metab* 81: 1641-1649.

SAYEGH, R.A., TAO, X.J., LEYKIN, L. and ISAACSON, K.B. (1997). Endotherial α-macroglobulin; localization by *in situ* hybridazation and effect on mouse embryo development *in vitro. J Clin Endocrnol Metab* 82: 4189-4195.

SHERWIN, J.R., SHARKEY, A.M., CAMEO, P., MAVROGIANIS, P.M., CATALANO, R.D., EDASSERY, S. and FAZLEABAS, A.T. (2007). Identification of novel genes regulated by chorionic gonadotropin in baboon endometrium during the window of implantation. *Endocrinology* 148: 618-626.

SUNDSTROM, S.A., KOMM, B.S., PONCE-DE-LEON, H., YI, Z., TEUSCHER, C. and LYTTES, C.R. (1989). Estrogen regulation of tissue-specific expression of complement C3. *J Biol Chem* 264: 16941-16947.

TANIMURA, T. and SHEPARD, T.H. (1970). Glucose metabolism by rat embryos *in vitro. Proc Soc Exp Biol Med* 135: 51-54.

TRAVERS, J.P., EXELL, L., HUANG, B., TOWN, E., LAMMIMAN, M.J., PRATTEN, M.K. and BECK, F. (1992). Insulin and insulinlike growth factors in embryonic development - Effects of a biologically inert insulin (guinea pig) on rat embryonic growth and development *in vitro. Diabetes* 41: 318-324.

ULGER, H., KARABULUT, A.K. and PRATTEN, M.K. (2000). The growth promoting effects of bFGF, PD-ECGF and VEGF on cultured postimplantation rat embryos deprived of serum fractions. *J Anat* 2000: 207-219.

USAMI, M., MITSUNAGA, K. and NAKAZAWA, K. (2007). Comparative proteome analysis of the embryo proper and yolk sac membrane of day 11.5 cultured rat embryos. *Birth Defects Res B Dev Reprod Toxicol* 80: 383-395.

USAMI, M., NAKAURA, S., KAWASHIMA, K., TANAKA, S. and TAKANAKA, A. (1992). Culture of postimplantation rat embryos in rabbit serum for the identification of the growth factor in fractionated rat serum. *J Exp Zool* 264: 214-218.

USAMI, M. and OHNO, Y. (1996). Partial purification and characterization of serum embryotrophic factor required for early postimplantation growth of rat embryos in culture. *J Exp Zool* 276: 403-414.

USAMI, M. and OHNO, Y. (2005). Preparation of complement fragments C3b and C3a from purified rat complement component C3 by activated cobra venom factor. *J Pharmacol Toxicol Methods* 52: 260-263.

WESSELS, M.R., BUTKO, P., MA, M., WARREN, H.B., LAGE, A.L. and CARROLL, M.C. (1995). Studies of group B streptococcal infection in mice deficient in complement component C3 or C4 demonstrate an essential role for complement in both innate and acquired immunity. *Proc Natl Acad Sci USA* 92: 11490-11494.

WETSEL, R.A., LUNDWALL, Å., DAVIDSON, F., GIBSON, T., TACK, B.F. and FEY, G.H. (1984). Structure of murine complement component C3. II. Nucleotide sequence of cloned complementary DNA coding for the α chain. *J Biol Chem* 259: 13857-13862.

WILLIAMS, C., PRISCOTT, P.K., OLIVER, I.T. and YEOH, G.C.T. (1986). Albumin and transferrin synthesis in whole rat embryo cultures. *J Embryol Exp Morphol* 92: 33-41.

YOUNG, S., LEMM, A.R., BECKMAN, D.A., BRENT, R.L. and LLOYD, J.B. (1997). Uptake and processing of ^{59}Fe-labelled and ^{125}I-labelled rat transferrin by early organogenesis rat conceptuses *in vitro. Placenta* 18: 553-562.

J Pharmacol Sci **112**, 113 – 117 (2010)

Journal of Pharmacological Sciences
©2010 The Japanese Pharmacological Society

Short Communication

Two Non-steroidal Anti-inflammatory Drugs, Niflumic Acid and Diclofenac, Inhibit the Human Glutamate Transporter EAAT1 Through Different Mechanisms

Kanako Takahashi[1,2], Reiko Ishii-Nozawa[1], Kouichi Takeuchi[1], Ken Nakazawa[2], and Kaoru Sato[2,]*

[1]*Department of Clinical Pharmacology, Meiji Pharmaceutical University, Noshio 2-522-1, Kiyose, Tokyo 204-8588, Japan*
[2]*Division of Pharmacology, National Institute of Health Sciences, 1-18-1 Kamiyoga, Setagaya, Tokyo 158-8501, Japan*

Received September 17, 2009; Accepted November 14, 2009

Abstract. We investigated the effects of non-steroidal anti-inflammatory drugs on substrate-induced currents of L-glutamate (L-Glu) transporter EAAT1 expressed in *Xenopus laevis* oocytes. Niflumic acid (NFA) and diclofenac inhibited L-Glu-induced current through EAAT1 in a non-competitive manner. NFA produced a leftward shift in reversal potential (E_{rev}) of L-Glu-induced current and increased current amplitude at the potentials more negative than −100 mV. Diclofenac had no effects on E_{rev} and inhibited the current amplitude to the same extent at all negative potentials. These results indicate that NFA and diclofenac inhibit the L-Glu-induced EAAT1 current via different mechanisms.
[Supplementary methods and Figure: available only at http://dx.doi.org/10.1254/jphs.09260SC]

Keywords: L-glutamate transporter, niflumic acid, diclofenac

L-Glutamate (L-Glu) transporters, EAATs, are the only significant mechanism for removal of L-Glu from extracellular fluid and maintenance of non-toxic concentrations. A growing body of evidence has suggested the correlation of EAATs with synaptic transmission and a variety of central nervous system (CNS) diseases (1).

Non-steroidal anti-inflammatory drugs (NSAIDs) are major anti-inflammation drugs and their effects are attributed to the inhibition of cyclooxygenase. Although NSAIDs are reported to have diverse effects on the CNS (2, 3), their effects cannot be explained only by their anti-inflammatory effects.

In recent report, fenamates, a group of NSAIDs, modulated substrate-induced current through EAATs (4, 5), suggesting a new molecular target for NSAIDs. We therefore investigated the effects of other types of NSAIDs on EAAT1.

All procedures were in accordance with the Guiding Principles for the Care and Use of Laboratory Animals approved by The Japanese Pharmacological Society. The detailed methods for expression of EAAT1 in oocytes and electrophysiology were shown in the Supplementary Methods (available in the online version only). L-Glu was applied for 15 s with regular 30-s intervals. NSAIDs were applied from 30 s before to 5 s after the end of the application of L-Glu.

The NSAIDs were dissolved as follows: niflumic acid (NFA) (Sigma, St. Louis, MO, USA), 300 mM in DMSO; diclofenac (Wako, Osaka), 300 mM in MeOH; aspirin (Wako), 300 mM in EtOH; and indomethacin (Sigma), 100 mM in EtOH. Arachidonic acid (AA) (Calbiochem, Darmstadt, Germany) was dissolved at 100 mM in DMSO.

All data were given as the mean ± S.E.M. *P* values were obtained by statistical analysis, as noted in the figure legends.

The left traces in Fig. 1A-a illustrate inward control current produced by L-Glu (30 μM) in *Xenopus* oocytes expressing EAAT1 at −50 mV (bold line) and −120 mV (thin line). We examined the effects of a variety of NSAIDs (Fig. 1: A and B). At −50 mV, NFA (300 μM – 3 mM) inhibited the EAAT1 current dose-dependently. At −120 mV, NFA enhanced EAAT1 current and the effect was significant at 3 mM. *Xenopus* oocytes have endogenously Ca^{2+}-activated Cl^- channels (CaCC) and Ca^{2+} entry through voltage-dependent Ca^{2+} channels elicits a

*Corresponding author. kasato@nihs.go.jp
Published online in J-STAGE on January 6, 2010 (in advance)
doi: 10.1254/jphs.09260SC